

1. 単元名 鹿屋PRプロジェクト

2. 単元の目標

- ・ 鹿屋市の魅力を生かしたりより広く伝えたりするために、多くの人々が連携・協力して取り組んでいることや、試行錯誤しながら具体的な行動を起こすことで地域の発展に貢献できることを理解することができる。 (知識・技能)
- ・ 過去・現在・未来の視点で鹿屋市を捉えることで問いを見だし、鹿屋市の魅力をより広く伝えるために自分たちにどのようなことができるか地域の方々とやり取りを通して整理・分析して、相手や目的に応じて発信することができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 鹿屋市を持続可能にするためにという目的意識をもち、意欲的に多様な相手と多様な方法で関わったり、自分たちにできることを考えたりしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、鹿屋市のふるさと納税や地域PR活動を通じて、地域の発展に向けた具体的な取組と、地域の方々と連携の大切さを学ぶことを目指す。鹿屋市は黒毛和牛やカンパチの養殖、さつまいもの加工品、焼酎などの特産品で知られており、「バラの町」としても有名である。これらの特産品や文化が地域の魅力を支えている。これらの特産品を活用して地域の魅力を広く発信することは、鹿屋市の発展にとって重要である。そこで、児童は地域の方々と協力し、特産品や文化を活用して地域の魅力を伝える活動に取り組む。この活動は、児童と地域の方々双方にとって意義深い活動となる。例えば、ふるさとPR課や地元企業と協力し、地域の魅力を整理し、それを効果的に発信する方法を学ぶことが考えられる。特産品を紹介するリーフレットや動画を制作し、地域の方々に発信することで、自分たちの学びを地域に還元する。こうした具体的な活動を通じて、児童は地域の発展に貢献するために何ができるかを考え、持続可能な地域づくりに向けて行動する力を養うことができる。この経験を通じて、児童は地域の魅力を効果的に伝える方法を学び、地域社会に積極的に参加する姿勢を育むことが期待できる。

(2) 児童観

本学級の児童は、昼休みには異学年とも仲良く遊び、特に一年生に優しく接し、大人にも人懐っこい態度を見せ、褒められると張り切って行動する素直な子供たちである。また、興味を持ったことに対して、高い集中力と行動力を発揮する姿が見られる。一方、昨年度までの友人関係の不和により成功体験が乏しく、学習や生活の場面で具体的な指示や役割がステップごとに与えられなければ行動に移せない児童が多い傾向がある。また、友人関係が学級全体の雰囲気や左右し、その影響が授業にも大きく表れている。

郷土鹿屋に対する児童の意識を把握するために実施したアンケートでは、80%以上の児童が「鹿屋が好き」と答えたが、将来的に地元に住み続けたいと考える児童は10%以下に留まった。しかし、多くの児童が、将来地元に戻る際には「鹿屋が豊かな場所であってほしい」という願いをもっていることも明らかになった。

一学期に平和学習を通じて、鹿屋市がかつて特攻隊の基地として多くの特攻機が飛び立った地であるという悲しい歴史を学んだ。この平和学習を通じて、郷土鹿屋への理解を深めた。郷土の魅力を再発見し、地域に貢献したいという意識を育むために、この課題を取り上げる意義は大きい。児童が多くの人に支えられていることを実感し、主体的に行動し、試行錯誤を重ねながら成功体験を積み重ねられるような展開を目指していきたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず鹿屋市の人口構成、ふるさと納税寄付額、市の歳出歳入のデータについて提示する。また、日本国内の消滅可能性都市についても言及し、鹿屋市が今後人口減少に直面し、持続可能な町として存続することが難しい可能性に気づかせる。この気づきを基に、今後の鹿屋市のあり方について話し合いを行い、街づくりの課題について考えさせる。その課題意識を基に、児童が自分たちでできる鹿屋市のPR活動についてアイデアを出し合う。アイデアがなかなか出ない場合でも、それを受け止

め、地域でPR活動に取り組んでいる人をゲストティーチャーとして招く学習につなげる。

続いて、鹿屋市役所のふるさとPR課の方をゲストティーチャーとして招き、ふるさと納税の仕組みや、地域PRの実際の活動内容について学ぶ。このことで、地域PRについての具体的なイメージを膨らませ、鹿屋市には自然や畜産、漁業など多くの魅力があることを再認識させる。そして、これらの魅力を発信するために鹿屋市がどのような取組をしているのかについても学ぶ。次に、児童自身で何かできないか考え、具体的に取り組んでみたいことについて意見を出し合う。その後、ふるさとPR課の方に子供たちが考えたアイデアに対するフィードバックをもらう。具体的な取組としては、児童が書いた直筆のお礼の手紙をふるさと納税の返礼品に同封し、鹿屋市へのふるさと納税を増やすことを目指す。

この取組に賛同してくれる企業についても調べ、その企業の方を招いて話を聞く。企業としての取組や、持続可能な地域づくりのための活動、職業観などについて話をしてもらう。この活動を通して、具体的に手紙に書く内容についてのイメージを深め、食や地域に対する感謝の気持ちを具体的な行動としてどのように表していくかを考える機会とする。

更には、これらの活動を通して学んだことや気づいた鹿屋市の魅力について、県内外の学校にPRする活動も行う。この活動を通して、実際の地域PRを体験し、他の地域の魅力や、それぞれの地域で地域づくりに取り組む人々の思いや願いについても理解を深める。

最終的に、これらの活動を振り返り、地域づくりに直接貢献できたという実感をもたせ、持続可能な地域にするために自分たちに普段からできることについて話し合う。これにより、学校生活や家庭生活における具体的な行動変容を促していく。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

連携性：地域の魅力を生かしたりより広く伝えたりするためには、特定の職業や大人だけでなく、地域に住む一人一人がそれぞれの強みを掛け合わせて具体的な行動を起こすことが大切である。
公平性：今だけでなく、将来まで地域の「魅力」を残していくことが大切である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ① 未来像を予測して計画を立てる力：過去・現在・未来の視点で鹿屋市を捉えることで、「この先はどうなるだろうか。」と問いを立てながら、課題に気づき、解決しようと行動することができる。
- ② 協働的問題解決力：異学年、ふるさとPR課、企業と連携して地域の魅力を広める活動を行う。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

- ① 世代間の公正を重要視する価値観
自分たちだけでなく、これから未来の子供たちも安心して過ごせる地域にしていくことが大切である。
- ② 幸福感に敏感になる、幸福感を重視する
今の自分たちが幸せであることだけが、将来的な幸せにつながるとは限らない。

・達成が期待される SDGs

- 11 住み続けられる町づくり
- 12 パートナーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 地域をよりよくしていくために、多くの人々が連携・協力していることを理解している。	① 鹿屋市の魅力をPRするための方法について、地域の方々の連携を通じて整理・分析しながら考えている。	① 鹿屋市を持続可能にするための目的意識をもち、意欲的に他者と協力しながら、地域の魅力を伝える活動に取り組んでいる。
② 地域の特産品や文化についての知識をもち、それを活用して鹿屋市の発展に寄与する方法を理解している。	② 鹿屋市の魅力をPRするために、相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	② 持続可能な地域づくりに向けて、自ら考え、試行錯誤を通じて行動し、地域社会に貢献する意識をもって取り組んでいる。

5. 単元の指導計画（全 30 時間）

学習活動	学習への支援	評価
<p>1 1学期の振り返りを行い、鹿屋市の戦後から現在への発展を確認する。ふるさと納税額の推移とその影響について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿屋市にはたくさんの魅力があるんだな。 このままだと鹿屋市がなくなるかもしれない。 鹿屋市がこれからも豊かな街になるように何かできることはないかな。 詳しい人に聞いてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画を活用しながら身近な鹿屋市の特産品や有名人についての話題を扱うことで、鹿屋市の魅力に気付けるようにする。 ふるさと納税額の推移を一部隠しながら提示することで、令和4年～令和5年にかけて減収していることに着目できるようにする。また、減収の影響について、税の学習を想起させることで、具体的にイメージできるようにする。 	ウ①
<p>2 鹿屋市役所ふるさとPR課の講話を聞き、地域PRの目的や手法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税の仕組みについて分かった。育ててくれた郷土に対する恩返しなんだな。 鹿屋をPRすることで、鹿屋市がより豊かになるんだな。 私たちにできることはないだろうか。 返礼品に手紙を入れるのは良さそうだな。手書きの方が喜ばれるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税が、単にお金を集める手段ではなく、鹿屋で育った人たちが郷土への恩返しとして行うという意味合いについて触れる。 児童自身ができる地域PRの取組について話し合い、ふるさとPR課の方からフィードバックをもらうことで、実現可能な取組の具体的なイメージをもつことができるようにする。 	ア① イ②
<p>3 鹿屋をPRするために具体的に取り組む内容について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税をしてくれた人にお礼の手紙を書いてみたい。 たくさんの人たちにPRしたいな。 動画でPRしてみたいけど、方法が詳しく分からないから詳しい人いないかな。 鹿屋の魅力をPRするカードを書きたいな。 ふるさと納税返礼品の取組に協力してくれる企業っているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> やってみたいかどうか（意欲）、できそうか（実現可能性）の2軸で、児童のアイデアを整理するように促すことで、具体的な取組へとつなげていく。 決まった取組について、いつ、どの教科であるか等、具体的に見通しを共有する。 	イ① ウ②
<p>4 協力してくれる企業の方を講師として招き、話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿屋の魅力を生かした仕事を通して、人々を笑顔にすることができるんだな。 お金を稼ぐだけではなくて、SDGsについての取組も行っているんだ。 私たちのために、話をしにきてくれてありがたいな。 お礼の手紙に書く内容のイメージが少しわいてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に児童から質問を集めておくことで、ゲストティーチャーの話に興味をもって聞くことができるようにする。 仕事を通して持続可能な町づくりを目指していることを、具体的な事例を基に伝えることで、SDGsについて具体的にイメージできるようにする。 	ア① ウ②
<p>5 鹿屋PRカードを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> PRカードを読んだ人に鹿屋の魅力が伝わるようにするにはどんなレイアウトや表現にすればよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科「鳥獣戯画を読む/発信！鹿屋の魅力」との関連を図ることで、目的意識をもって表現や構成の工夫を生かすことができるようにする。 	イ②
<p>6 カンパチロウ（ご当地キャラクター）が出演するグランプリ（ゆるばーす）への投票を呼び掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校児童に呼びかけたいな。放送やポスター掲示、プリント配布、朝の会で説明、動画作成をしてみよう。 自分の得意なことを生かせないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去にゆるばーすで上位ランクインした地域のふるさと納税寄付額が大幅に増加したことを伝えることで、自分たちの取組が地域貢献につながるという思いをもてるようにする。 誰に対してPRしたら良さそうか問いかけることで、相手意識をもてるようにすると共に、効果的な方法について考えることができるようにする。 	イ② ウ①②

<p>7 県内外の学校にリモートでPRする準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことをPRすればよいか。 ・ 聞いている人が分かりやすいスライドにするにはどうすればよいか。 ・ クイズを入れたら分かりやすいかな。 ・ スライド1枚当たりの情報量はどれぐらいにするのがよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表する内容については、児童の思いを大切にし、押しつけにならないようアドバイスまでに留めるようにする。 ○ リモートでの伝え方について、バッドモデルやグッドモデルを提示し、自分たちの発表と比べることでよりよい伝え方に気づけるようにする。 ○ 他の学校が作成した紹介動画を見せて、見通しをもつことができるようにする。 	<p>イ① ウ①②</p>
<p>8 県内外の学校にPRする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの地域にも魅力があって、その良さを生かしたり広めたりしようと取り組む人たちがいるんだ。 ・ 高校生の発表は、話し方も内容も分かりやすかった。 ・ もっと魅力が伝わるPRするにはどうすればよいただろうか。 ・ 県外だけでなく、県内にももっとPRする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 質問や感想の時間を設定することで、発表するだけでなく、相手の発表をしっかり聞くことも意識できるようにする。 ○ 発表は記録し、後から振り返ることができるようにすることで、発表後に静かと課題に気づくことができるようにする。 ○ 相手の発表の良さを記録するシートを準備することで、自分たちが今後PRを続けていく時に、学べる視点を見いだすことができるようにする。 	<p>イ② ウ①</p>
<p>9 もっと広くPRするための方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グッズを作りたい。一緒にPRに協力してくれる企業はないかな。 ・ オープンスクールで鹿児島県内の見に来られる先生方にも伝えたいな。せっかくだから全校いっしょに行きたいな。 ・ まだまだ他の学校とも交流したいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの取組を振り返り、「できたこと」「もっとできそうなこと」で整理し、まだやっていない活動の中で、取り組んでみたいことについて優先順位をつける。 	<p>イ① ウ②</p>
<p>10 ① 協力してくれる企業の授業を受け、メッセージ付きのグッズ作りに取り組む。 ② 県外の学校とリモートで交流する。 ③ 研究公開で来校される150名以上の先生方に向けて、PRブース、PR動画を通して発信したいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsに取り組んでいる人たちってたくさんいるんだ。 ・ 自分たちのメッセージを届けられるって嬉しいな。 ・ 学校全体で取り組むとより大きなことができるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グッズを配布する相手とグッズの内容に応じた適切な表現方法について考え、フィードバックをもらうようにする。 ○ 異なる相手（県外の小学生、県内の先生）に伝える経験をすることで、相手や目的に応じた分かりやすい表現の仕方について深められるようにする。 	<p>イ①②</p>
<p>11 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返ってみると、地域をPRするためにたくさんの方が協力していたな。 ・ 私たちが「やってみたい」と思ったことに協力してくれる大人がたくさんいるんだ。 ・ 持続可能な鹿屋にしていくために、PR以外に普段からできることはないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちがしたことだけでなく、関わってくれた方や支えてくれた方の存在に目を向けられるように、なぜこのような取組ができたかについて考える時間を設定する。 ○ 取り組んだことでどんな良さがあったか振り返られるようにする。 	<p>ア① ウ③</p>